

このチラシは、伊丹市議会議員“相崎佐和子”が、市政情報などをお届けしているニュース紙です。

毎月発行（年4回はA3・その他はA4）しており、ポスティング・駅やスーパーマーケット前での配布・郵送などでお届けしています。

現在、伊丹市議会の議長をしています。「議長って何をしているのかわからない」とのお声を頂戴することを踏まえ、この活動ニュースでは、議長公務の様子などを議員活動と同時にご報告しています。



相崎佐和子

## 福井県の学力が高いヒミツを探れ！ ～文教福祉常任委員会 視察～

7月26～27日、文教福祉常任委員会で視察へ。子育てや教育が充実しているという福井県に、その秘密を探りに行きました。

### ■病児・病後児保育 ～福井県福井市～

病気中や回復期にある子どもを預かる「病児・病後児保育」。福井市は以下の充実ぶり！

◎受入数：合計16名（伊丹市2名） ◎対象児童：生後2ヶ月～小6（伊丹市 生後6ヶ月～小3） ◎実施実績：年間延べ4281人

Q：（背景）なぜ子育て施策が進んでいるのか？ →福井県が子育て施策の充実を県の魅力にすべく強力に取り組んでいるのが大きい。“子育ては地域で”との地域意識が強いこともある。

Q：（経費）経費は？ →年間約5579万（H27年度）。国県市で1/3。

Q：（運営）運営は？ →民間のクリニックなどに委託。協力的。

伊丹市も子育て施策に力を入れているが、福井市に比べるとまだまだ。地域性も課題も異なるものの、財政を鑑みながらも堂々と「子育てしやすい街」と言える取り組みを進めたい。

### ■学力向上施策 ～福井県～

福井県は全国学力テストの結果が良く“学力の高い県”として高名。そこで取り組みを伺いました。

まず学力を支える基盤として、次の3点があげられるそう。①家庭での基本的な生活習慣の確立 ②親は共働きして祖父母が子育て（三世同居率：全国2位、共働き率：全国1位、女性の就業率：全国2位） ③地域全体で子どもを育てる風土。

そして実際には次のような施策を展開中。①少人数学級（例：中1は1クラス30人） ②コミュニティスクール（地域と学校が連携） ③スクールプラン（各校で目標と具体的計画） ④学力向上プラン ⑤独自の教育活動（例：「白河文字学」の漢字学習・「ふくい理数グランプリ」の開催・「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の創設） ⑥教員の資質向上（例：「授業名人」制度・福井大学教職大学院との連携・コアティーチャー養成事業） ⑦福井型18年教育（保幼小連携、小中連携、中高連携） ⑧健やかな体の育成（福井県は全国体力テストでも好成績、各校が体力テストの結果を分析検証し計画書を作成） ⑨縦持ち（中学校にて学年をこえて教科を担当） ⑩無言清掃（清掃時は無言！）

学力が高い秘密はなにか？魔法のような目玉施策はなく、当たり前のことを当たり前にしている結果でした。早寝早起き朝ごはん、家庭で勉強・・・伊丹で啓発していることが、福井では当たり前なんだとか。教育施策に目が行きがちでしたが、生活環境の底上げが基本なのかも。教育施策もさることながら、こどもの貧困対策や教育格差の是正に力を入れたいと思い至った視察でした。



福井県議会後事堂